

平成26年度 大気環境調査事業報告書



埼玉県のマスコット「コバトン」

- I 有害大気汚染物質モニタリング調査結果
- II 炭化水素類組成調査結果
- III 石綿大気モニタリング調査結果
- IV ダイオキシン類大気常時監視結果
- V 酸性雨調査結果
- VI 地球環境モニタリング調査結果

平成28年7月

彩の国  埼玉県

目 次

I	有害大気汚染物質モニタリング調査結果	1
II	炭化水素類組成調査結果	3 7
III	石綿大気モニタリング調査結果	5 7
IV	ダイオキシン類大気常時監視結果	5 9
V	酸性雨調査結果	6 1
VI	地球環境モニタリング調査結果	7 7

執筆担当一覧

- I 有害大気汚染物質モニタリング調査結果：大気環境課・環境科学国際センター
- II 炭化水素類組成調査結果：大気環境課・環境科学国際センター
- III 石綿大気モニタリング調査結果：大気環境課
- IV ダイオキシン類大気常時監視結果：大気環境課
- V 酸性雨調査結果：大気環境課・環境科学国際センター
- VI 地球環境モニタリング調査結果：大気環境課・環境科学国際センター

「平成26年度 大気環境調査事業報告書」の概要

有害大気汚染物質モニタリング調査結果

有害大気汚染物質のうち環境基準が設定されている4物質（ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン）とも、すべての地点で環境基準を達成した。

有害大気汚染物質による健康リスクの低減を図るための指針となる数値（指針値）が設定されている8物質（アクリロニトリル、塩化ビニルモノマー、水銀及びその化合物、ニッケル化合物、ヒ素及びその化合物、クロロホルム、1,2-ジクロロエタン、1,3-ブタジエン）についても、すべて指針値を下回っていた。

炭化水素類組成調査結果

26年度の総炭化水素濃度の年度平均は、寄居が最も低く、戸田が最も高かった。昼夜別では、総炭化水素濃度に大きな差はなかった。

調査対象とした炭化水素成分のうち、オゾン生成に大きく寄与するのは、芳香族、オレフィン類、アルデヒド類であった。

石綿大気モニタリング調査結果

調査地点（20地点）における測定結果は、0.063～0.50本/リットルの範囲であった。

すべての調査地点で、大気汚染防止法で定める石綿製品製造事業所の敷地境界基準を大幅に下回る値であった。

ダイオキシン類大気常時監視結果

調査地点（23地点）における年間平均値は0.0098～0.087pg-TEQ/m³の範囲であった。

全地点で環境基準（年間平均値：0.6pg-TEQ/m³以下）及び埼玉県ダイオキシン類削減推進行動計画に掲げた目標値（年間平均値：0.3pg-TEQ/m³以下）を達成した。

酸性雨調査結果

平成26年度の初期降雨（加須）のpH値の年平均値は1～3mm、一降水とも昨年度より酸性側になった。

経年推移ではpH値の年平均値は中性側になり、成分濃度等については、硫酸イオンを始めとする各種陰イオン濃度は減少傾向を示した。

地球環境モニタリング調査結果

オゾン層破壊物質であり、地球温暖化物質でもあるCFC-11、CFC-12、CFC-113、1,1,1-トリクロロエタン及びHCFC-141bの濃度は長期的にみると減少傾向にある。

オゾン層破壊物質であり、地球温暖化物質でもあるHCFC-142b、オゾン層破壊物質ではないが、地球温暖化物質であるHFC-134a、一酸化二窒素及びメタンの濃度は増加傾向を示している。